



秋田県支部創立130年記念「秋田県赤十字大会」を開催 日本赤十字社名誉副総裁秋篠宮妃殿下がご臨席



日赤秋田県支部創立130年記念「秋田県赤十字大会」を平成29年11月7日、日本赤十字社名誉副総裁秋篠宮妃殿下をお迎えして、秋田県民会館において開催し、全県各地から赤十字会員、奉仕団員、地区分区関係者など約1,300人が参加しました。

日赤秋田県支部は、前身の秋田県委員部が全国7番目の地方組織として明治20年11月3日に設置され、今年度で130年を迎えました。「人道」を基調とする普遍的な原則のもと、県民のみなさまのご理解とあたたかいご支援に支えられ営々と活動を展開してまいりました。心より感謝申し上げます。

式典では、佐竹敬久支部長(知事)の式辞の後、名誉副総裁秋篠宮妃殿下から赤十字事業の推進に顕著な功績のあった方々へ金色有功章が授与され、参会された方々をはじめ赤十字活動に関わる人々の尽力にねぎらいと励ましのおことばをいただきました。その後、副社長より社長感謝状、支部長より支部長感謝状を代表受章者へ贈呈しました。

また、式典終了後、秋篠宮妃殿下は秋田赤十字乳児院をご視察になり、乳児院の子どもたちとあたたかくふれあってくださいました。



子ども1人ひとりを抱っこして交流してくださいました(秋田魁新報社提供)

体験発表

式典では、赤十字活動の体験発表として、高橋トモ子さん(大仙市中仙赤十字奉仕団委員長)が奉仕活動について、また京極芳久さん(秋田赤十字乳児院職員)が乳児院での里親委託の推進について、それぞれ発表を行いました。高橋委員長は、7月の大雨災害での炊出しを例に“貴重な体験が赤十字活動の喜びを教えてくれる。これからも仲間と阿吽^{あうん}の呼吸で活動を続けたい”と述べました。

式典の最後には、参会した赤十字奉仕団員全員(約1,000人)による“あこがれの赤十字”の合唱を行い、赤十字活動への決意と団結を新たに、大会は終了しました。



秋篠宮妃殿下の前で奉仕活動について語る高橋トモ子委員長

乳児院ご視察

秋篠宮妃殿下の乳児院のご視察では、子どもたち一人ひとりに視線を合わせ、乳児クラスでは全員を抱っこしていただきました。2、3歳児クラスでは、手作りおもちゃ(コマ)制作の様子をご覧いただき、緊張で輪に入らずにいる子どもを見つけると、そっとそばに寄り添って

いただきました。また小規模グループケア室(※少人数で養育を行っている養育室)では、ご訪問の時間が延長しているにもかかわらず、パズル遊びをしていた子どもが最後のピースをはめ込むまで見届けられました。

日本赤十字社金色有功章受章者

今回の大会で名誉副総裁より金色有功章を受章された方々です。赤十字活動に対する多大なご協力、ご尽力に感謝申し上げます。

(以下 敬称略)

社資功労(個人)

- 男鹿市 加藤初枝子 ●由利本荘市 三澤 通
- 大仙市 鈴木 勝男 ●大仙市 高橋 一昭 ●五城目町 佐藤 成孝

社資功労(法人)

- 秋田市 秋田県自動車販売店協会
- 秋田市 一般社団法人秋田県医師会
- 秋田市 一般社団法人秋田県林業コンサルタント
- 秋田市 株式会社アキタ保険
- 秋田市 株式会社アルファプランウェーブ
- 秋田市 むつみ造園土木株式会社
- 秋田市 ライオンズクラブ国際協会 332-F 地区
- 大館市 株式会社本家比内地鶏
- 男鹿市 株式会社沢木組
- 潟上市 医療法人正和会
- 八郎潟町 サクセス株式会社
- 秋田市 秋田ゼロックス株式会社
- 秋田市 一般社団法人秋田県歯科医師会
- 秋田市 株式会社秋田ケーブルテレビ
- 秋田市 株式会社秋田県赤帽
- 秋田市 タプロス株式会社
- 秋田市 山二施設工業株式会社
- 大館市 奥羽電気設備株式会社
- 大館市 ニプロ株式会社大館工場
- 湯沢市 有限会社佐藤養助商店
- 大仙市 大曲土建株式会社
- 美郷町 はりま建設株式会社

業務功労

- 八峰町 佐藤 勇一(奉仕団員功労) ●大仙市 大仙市仙北赤十字奉仕団(奉仕団功労)
- 秋田市 秋田市立秋田南中学校(青少年赤十字加盟校功労)



売りにげに連動して赤十字へ寄付! ～社員の名刺にも赤十字支援マーク～

日赤秋田県支部が行う災害救護をはじめとする各種事業は、県民の皆様からお寄せいただく活動資金を財源としています。

近年、人口減少や高齢化などの影響もあり、個人の方々からのご寄付は低下傾向にあることから、当支部では法人・団体様にも広く活動資金へのご協力をお願いしております。

多くのご協力をいただいている中で、「秋田ゼロックス株式会社」の取り組みについて紹介します。

秋田ゼロックス(株)は、複写機などの販売及びアフターサービスを主な事業とされ、赤十字活動資金には20年以上前からご協力をいただいております。

そうした中、平成28年から新たに取組まれたのが、「売りにげに連動して赤十字に寄付する」というものです。具体的には、特定の複写機・プリンターの販売(リース含む)1台につき定額を当支部にご寄付いただくものです。昨年は、507,500円をご寄付いただきました。

また、名刺と見積書に赤十字支援マークをご使用いただき、赤十字のPRにもご協力をいただいております。



わたしたちは日本赤十字社の活動を支援しています。

日本赤十字社



秋田ゼロックス株式会社 吉田進代表取締役社長に お聞きしました!



なぜ赤十字に協力を?

災害時に救護活動などの人的支援や救援物資を届けるなどの物的支援など、総合的な支援ができる団体だからです。また、災害時だけでなく平時においても地域に貢献する活動をされているので、当社の「秋田のために」という社会貢献の理念と一致していて賛同できるからです。

実は、当社の役員が町内会で赤十字の防災講座を受けたことがあり、その活動内容に共鳴を受けたことから赤十字に寄付することにしました。

赤十字に期待することは?

より多くの人々に活動内容を知ってもらい、賛同者を増やして活動をさらに充実させてもらいたいと思っています。

きっかけは?

当社が創立30周年を迎える節目のタイミングだったので、新たな社会貢献活動としてスタートしました。「単年度の寄付」で終わるのではなく、継続して支援をしていきたいと思っていたので、売りにげ実績に応じてというルールを定めることにしました。

県民の皆様へのメッセージを!

当社も赤十字活動のPRに協力し、ほかの企業や団体にも赤十字の活動に共鳴して寄付をお願いしていきたいと考えています。名刺に赤十字支援マークを入れているのもそうした考えによるものです。

赤十字支援マークとは

日本赤十字社の理念と活動に賛同し、資金や活動に協力していただける企業・団体が使用するものです。詳細については、当支部の総務課(☎:018-864-2731)にお問い合わせください。

「はたちの献血」キャンペーンがスタート! ～広瀬すずさんがキャンペーンキャラクターに就任～

昭和50年から実施している「はたちの献血」キャンペーン。今年は、女優の広瀬すずさんがキャンペーンキャラクターに就任し、2月28日まで全国で展開中です。

「いっしょに行こう。」友達。大切な恋人。かけがえない家族。
ひとりより誰かといっしょなら、助かるいのちも増える。
というメッセージを同世代を中心に発信し献血への協力と参加を呼びかけます!

キャンペーン期間中、献血にご協力をいただいた10代～20代の方々には広瀬すずさんオリジナルクリアファイルを、また「複数回献血クラブ」に新規入会いただいた10代～20代の方々へは広瀬すずさんオリジナルポスターカレンダーをプレゼント!!

また、秋田市内各献血ルームでも、春にかけて様々なイベントを企画して行きます!
ぜひ、この機会に、献血へのご理解ご協力をお願いいたします!

(※オリジナルファイル・ポスターの配布は、無くなり次第終了)



(株)秋田銀行様よりドクターヘリ事業に寄付金をいただきました

秋田県ドクターヘリ事業に寄付していただいた株式会社秋田銀行様へ平成29年12月20日、秋田赤十字病院において、感謝状を贈呈しました。

秋田銀行様からは、平成24年度から毎年寄付をいただいております。これまでにスタッフのユニフォームの購入や、ヘリポートの照明の整備等に充てております。今年度いただいた寄付金も大切に活用させていただき、より一層、秋田県の地域医療に貢献するべく本事業を進めていきたいと思っております。

また、当院では、秋田県ドクターヘリ事業のさらなる内容の充実・拡大のための寄付を随時受け付けております。皆様からいただいたご支援は本事業の貴重な財源として活用させていただきます。本事業の活動の趣旨にご賛同いただける皆様からのご支援をお待ちしております。



「あきぎん」のステッカーを貼ったヘリが、みなさんのもとに駆けつけます!

お問い合わせは秋田赤十字病院 企画調査課
(☎:018-829-5000)まで。

日赤短大だからこそ学べることもある! ～介護福祉学科の取り組み～

一人ひとりに合わせた介護を学んでいます

介護福祉士の仕事に生活支援があります。日常生活を自分で行うことがむずかしい利用者に対し、食事や排泄、入浴などをそれぞれの症状の度合いや環境などに応じて介助したり、またお宅に訪問し自身で行うことが難しい炊事や洗濯、買い物などの家事をしったりするものです。生活支援に当たっては、介護を必要とする方が尊厳をもって自分らしく生活できるようにするための考え方や技法を身につけることがとても大切です。日赤短大の「生活支援技術」の授業では、学生が利用者役となり、一人ひとりに合わせた介護の方法を実践的に学びます。

卒業課題研究 ～介護福祉士のより高い専門性を目指して～

高齢化がすすむ中で、介護福祉士の質的向上が求められています。高齢者や障がいのある人たちのいのちを守り、生きる力を強め、生活の質を高めるため、専門的な知識・技術を確立していくことがなによりも大切です。このため日赤短大で身につけた知識や技術を卒業後の実践力につなげることを目的として、学生自身が考える“課題”を通して専門知識だけでなく職業人生における基礎・基盤となるさまざまなことについて教員と一緒に研究を進めています。

日本赤十字秋田短期大学について学びの様子や先輩の声などを掲載しています!詳しくはHPをご覧ください!

URL:<https://www.rcakita.ac.jp/>



移動の介助はとてもだいじです



高齢者が好む調理方法を学びます